

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 11 月 26 日現在

機関番号：30106
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2012～2014
 課題番号：24530719
 研究課題名(和文) イギリス障害者運動における社会モデルの源流を求めて

研究課題名(英文) The Roots of Social Model

研究代表者

田中 耕一郎 (TANAKA, KOICHIRO)

北星学園大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：00295940

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：イギリスにおける「障害」の社会モデルの源流にあるとされる「隔離に反対する身体障害者連盟」(UPIAS)について、1)1960年代から80年代にかかる「障害」をめぐる政治、2)UPIASの創設者であるポール・ハントのライフヒストリーにおけるディスアビリティ体験とその思想形成、3)デイビス夫妻のディスアビリティ体験と統合化の実践、4)UPIASの組織形態の構造化、5)UPIAS結成職におけるフレーミングの過程とその意味を検証することができた。

以上の研究成果は、当初予定していたUPIAS研究全体のほぼ8割に当たり、今後、2年間に残りの作業課題を終了させ、遅くとも2017年度中の出版を目指したい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate the history of "Union of the Physically Impaired Against Segregation (UPIAS)" that is the roots of Social Model in U.K. The result in the study period is as follows.

1) The first point to be discussed is the politics over "Disability" to appear from 1960s through 80s, 2) The second point to be discussed a disability experience in the life history of Paul Hunt who initiated the setting up of UPIAS, 3) The third point to be discussed a disability experiences in the life history of Mr. and Mrs. Davis who both led UPIAS as core members from its early days along with Paul, (4) The fourth point to be discussed is how the organization of the Union of the Physically Impaired Against Segregation (UPIAS) has been structured, (5) The fifth point to be discussed is to analyze the early framing process of the issue of the Institution for Physically Impaired People by the UPIAS.

研究分野：社会福祉、障害学

キーワード：UPIAS 社会モデル 障害者運動 ディスアビリティ フレーミング

1. 研究開始当初の背景

イギリスにおいて 1972 年に結成された「隔離に反対する身体障害者連盟」(以下、UPIAS)は<障害問題>を政治的に把捉するためのパースペクティブとして社会モデルを生成し、その理論的練成と実践化への取り組みを通して、1980 年代以降のイギリスにおける障害者運動・障害学・障害者福祉はもとより、国際的な障害者運動の思想形成と障害研究の発展に大きな影響を及ぼしてきた。

この UPIAS が提起した社会モデルについては、イギリスはもとより日本の障害学や障害者福祉領域においても、その<障害>のリアリティ分析に係る認識モデルとしての精度や、<障害>の解決機能に係る汎用可能性等に関する研究が進められてきた。

しかし、この社会モデルの源流にある UPIAS については、これまで社会モデル研究や障害者運動史において僅かに言及されるだけで、この組織の結成から解散に至る過程を詳細に捉えた研究は、イギリスにおいてはもとより日本においても皆無であり、社会モデル生成の文脈が UPIAS の歴史とともに未だ発掘されていない現状にある。その主たる要因は UPIAS 内部の議論を詳細に記録した一次資料の収集が極めて困難であったということにある。

2011 年度、応募者はリーズ大学社会学・社会政策学部及び障害学センターにて研修の機会を得たが、この期間中に、UPIAS 内部における回覧資料(*UPIAS Circular* と関連資料)の複写百数十点の収集と、元 UPIAS メンバー並びに関係者からの聴き取り調査を実施することができた。

これらの資料及び調査データによって、これまで不明のままに置かれていた UPIAS における思想形成に係る言説を詳細に辿る作業を通して、社会モデルが生成される思想的契機とその文脈を詳らかにすることによって、社会モデルが含意した固有の政治的意味

を捉え直すことが可能であり、それは今後の社会モデル研究へ大きく資することになると同時に、この作業は社会モデルの提唱によって国際的な障害者運動と障害者政策に多大な影響を与えた UPIAS を障害者運動史、及び<障害>をめぐる政治思想史に明確に位置づけることになり、それは<障害>の歴史研究においても重要な意味を持つものであると考えた。

2. 研究の目的

本研究は当初 6 つの小テーマによって構想していた。すなわち、(1)戦後イギリス障害者運動の歴史、(2)UPIAS 創設者であるポール・ハントのライフヒストリー、(3)UPIAS 結成直後における組織目的・方針・綱領をめぐる議論、(4)1970 年代後半における組織解散の危機と再出発をめぐる議論、(5)ポール・ハント没後か 1990 年の組織解散に至る経緯、(6)<障害>の政治思想史における UPIAS の意味と意義、である。

今回の応募研究期間においては、当初この小テーマの(2)から(5)に取り組む予定であったが、研究を進める中で、より、詳細に UPIAS の足跡を辿る必要上、新たな小テーマを幾つか加え、研究のアウトラインを次のように変更した。すなわち、(1)研究の枠組み、(2)1960 年代から 80 年代にかかる「障害」をめぐる政治、(3)ポール・ハントのライフヒストリーとディスアビリティ体験、(4)デビス夫妻のディスアビリティ体験と統合化を求める実践、(5)組織の形態的構造化、(6)結成初期 18 ヶ月間のフレーミング、(7)『障害の基本原理』における言説分析、(8)ポールの死、組織の危機と再生、(9)組織活動の停滞から「ユニオンの死」へ、(10)UPIAS の活動とその思想、である。

本研究の応募期間中に達成できた小テーマは上記のうちの(1)～(6)であるが、2015 年度中に(7)と(8)を仕上げ、また、2016 年度に

は(9)と(10)に取り組み、遅くとも 2017 年度中には書籍にとりまとめ、出版したいと考えている。

3. 研究の方法

上記(2) 1960年代から80年代にかかる「障害」をめぐる政治の検証については、戦後イギリスの障害者福祉政策を辿るとともに、UPIAS メンバーらのディスアビリティ体験を生み出した1960年代から1980年代に係る時代的思潮を素描し、さらに、そのディスアビリティへの抵抗としてUPIASがそのフレーミングと集合行為を展開した時、そこに影響を与えた当時の「新しい闘争」の形式を、「新しい社会運動論」の先行知見を参照しながら捉えてゆく。

(3)及び(4)のポール・ハントとデイビス夫妻のライフヒストリー分析においては、ポール・ハント、及びデイビス夫妻のライフヒストリーを辿りつつ、彼らのディスアビリティ体験とそれへの意味づけ、ディスアビリティをめぐる思想形成の過程を、故ポールハント夫人ジュディさんのインタビュー・データ(2011年7月11日及び9月27日にジュディさんの自宅で実施)、マギーデイビスさんのインタビュー・データ(2011年10月21日にマギーさんの自宅で実施)、ポール・ハントがチェシャー・ホーム(身体障害者長期入所型施設)への入所期間中(18歳~32歳)に施設入所者向けの *Cheshire Smile* という雑誌に執筆したエッセイや書評、UPIAS の内部回覧文書 *Internal Circular* などを素材としつつ検証する。

(5)のUPIASの形態的構造化の検証においては、先行の社会運動組織の構造化をめぐる研究の知見を援用しながら、1)組織の発生(UPIAS 創設者ポール・ハントによる組織結成の呼びかけ)、2)正会員資格の規定、3)組織運営の原則、4)チャリティ団体からの距離化と差異化、という4つの視点から、その形態

的構造化をめぐる議論を検証してゆく。

(6)の結成初期18ヵ月間のフレーミングの検証においては、社会運動研究におけるフレーム分析の知見に依拠しつつ、さらに、フレーミング機能の類型化を図り、この類型化されたフレーミング機能を手がかりに、「専門家覇権への抵抗」「障害の理論と抑圧の認識」「施設問題の構築過程」などに焦点を当てて検証する。

4. 研究成果

(1)UPIAS 創設者ポール・ハントのライフヒストリー(田中 2014a)

UPIAS の活動とその思想形成を辿る前段階として、UPIAS の結成を呼びかけ、UPIAS 創設から1979年に亡くなるまでの間、常にこの組織の牽引者の一人として、さまざまなディスアビリティへの組織的活動と、社会モデルを核とした障害理論の練成を主導し、後に、イギリス国内においてはもとより、国際的な障害者運動及び障害学の発展に貢献したポール・ハント(Paul Hunt:1937-1979)のライフヒストリーを辿りながら、彼が社会モデルの認識を萌芽させるに至る経緯やUPIAS の結成に至る内的な必然性等を明らかにした。

具体的には、ポール・ハントの幼少時からのディスアビリティ体験、被抑圧の状況に対する抵抗行動、研究・著述活動等を辿りながら、「障害者問題」をディスアビリティとして把握する社会モデル的認識の萌芽や、「障害者自身による組織」の必要性の認識に至る思考過程等について検討した。

(2)デイビス夫妻のディスアビリティ体験と統合化を求める実践(田中 2014b)

UPIAS の結成当初よりそのコア・メンバーとして、ポール・ハント(Paul Hunt)やヴィック・フィンケルシュタイン(Vic Finkelstein)らとともにこの組織を牽引するとともに、イ

ギリスで初めての自立生活センターを設立するなど、1980年代以降のイギリス障害者運動のリーダーでもあったデイビス夫妻のディスアビリティ体験と、統合化(integration)をめぐる実践を検証した。

具体的には、デイビス夫妻それぞれの受障の経緯、受障経験に基づくさまざまなディスアビリティ体験、ディスアビリティへの抵抗活動、UPIASへの参加の経緯、彼らのコミュニティであるダービーシャーにおける障害者のコミュニティへの統合化の実現に向けたさまざまな活動を辿りながら、彼らのディスアビリティに対する「感情レベルの反応」とともに、そのディスアビリティをめぐる思想形成の過程を検証した。

(3)UPIASにおける組織形態の構造化に関する検証(田中耕一郎 2015a)

社会運動組織はその成長過程において、「社会」としての慣習や規律の体系、指導者や牽引者、持続的な分業体制、新たな価値を生み出す文化などを生み出してゆく。したがって、社会運動組織の形態的構造化へのアプローチは、組織における「社会」形成の過程を検証してゆくための作業となる。

このような観点から、UPIASがその結成初期において、一つの「社会」としての運動組織を形作ってゆく過程に焦点を当て、1)組織の発生(UPIAS創設者ポール・ハントによる組織結成の呼びかけ)、2)正会員資格の規定、3)組織運営の原則、4)チャリティ団体からの距離化と差異化、という4つの視点から、その形態的構造化をめぐる議論を検証した。

(4)UPIASにおける初期フレーミングの分析(田中耕一郎 2015b)

社会運動研究のフレーム分析に関する先行研究の考証から、社会運動組織におけるフ

レーミング機能を、1)認知転換の機能、2)感情の水路付け機能、3)動員の機能、4)活動維持と方向付けの機能、5)集合的アイデンティティの形成機能という5つの機能に類型化し、UPIAS結成初期における「意味形成」の過程を検証した。

具体的には、1)専門家覇権への抵抗、2)「障害の理論」と「抑圧の認識」、3)「施設問題」の構築、4)組織名称をめぐる議論、等を取り上げたが、投稿論文では紙数の制限上、「施設問題」の構築を中心に論じている。

5. 主な発表論文等

【雑誌論文】(計4件)

- ・田中耕一郎(2014a)「社会モデルの源流を求めて(その1):UPIAS創設者ポール・ハント氏のライフヒストリーを辿って」『北星学園大学社会福祉学部北星論集』第51号(北星学園大学)。
- ・田中耕一郎(2014b)「社会モデルの源流を求めて(その2):デイビス夫妻のディスアビリティ体験と統合化を求める実践から」『北星学園大学社会福祉学部北星論集』第51号(北星学園大学)。
- ・田中耕一郎(2015a)「『隔離に反対する身体障害者連盟』における組織形態の構造化に関する検証」『北星学園大学社会福祉学部北星論集』第52号(北星学園大学)。
- ・田中耕一郎(2015b)「『隔離に反対する身体障害者連盟』における初期フレーミングの分析:『施設問題』の構築過程を中心に」『北星学園大学社会福祉学部北星論集』第52号(北星学園大学)。

【学会発表】(計3件)

- ・田中耕一郎(2012)「英国社会モデルの源流を求めて」(北海道社会福祉学会研究会)。
- ・田中耕一郎(2012)「英国における社会的ケアと障害者運動」(NPO法人たねっと)。
- ・田中耕一郎(2015)「『当事者性』論をめくつ

て」(北海道社会福祉学会研究大会)。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

6. 研究組織

(1)研究代表者

田中耕一郎(TANAKA, Koichiro)
北星学園大学・社会福祉学部・教授
研究者番号:00295940

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号: